

日本列島と朝鮮半島南部における初期都市化の比較—大阪からの展望

南秀雄（一般財団法人大阪市文化財協会（大阪市博物館協会 改め）

1. 目的と方法

藤原京・難波宮までの都市化の道筋がよくわからない

いち早く都市化が進む地域 大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地の地域間の比較研究

※三つの方法

- ① 古環境復元の活用
- ② 機能分化
- ③ 外部依存（必需物資の需給）

日本列島の5～7世紀の都市化の過程をたどった後、朝鮮半島南部でそれと対比できる事例をみて、日本列島と朝鮮半島南部の初期都市化の比較研究の展望を得る

両地域の初期都市化の比較研究は、倭・百済・新羅などの国家論の桎梏を経ることなく可能な、実証的研究に展開できる

2. 大阪上町台地

1) 機能分化

ア. 周辺や隣接地域の役割

a. 隣接地

難波堀江（なにわのほりえ） 仁徳天皇11年条 現在の大川

一大治水施設とともに運河の役割 5世紀にはその実態があった

難波津（なにわづ） 古地形復元では掘江の入口付近にラグーン（潟湖）や入江 港に利用
運河と港は一体

道 港や人口集中地と外とを結ぶ道 上町台地西側の砂州は意外に安定

b. 周辺

最新の古地形復元では淀川三角州の発達早い 5～7世紀には周辺に広大な低地帯

広い葦原 **難波屯倉**（なにわのみやけ）設置の翌年（535年）に大隅島などに牛の牧
葦原⇒茅場（かやば）・屋根材 牛の牧⇒使役できる牛馬 立地条件の良いところは畠へ
新しく生れた広大な低地帯も必需物資を補う役割

イ. 上町台地北端の都市化の3段階

a. 第1段階（5世紀）法円坂遺跡前後**法円坂倉庫群** 古墳時代で日本最大（16棟・計1450㎡以上） 1200人以上/年を扶養可能
須恵器窯（上町谷窯・法円坂窯）などの手工業生産の工房群が伴う 製品は足元へ供給
ある程度の人口集中 森を切り拓く（植生から） 港と運河の整備と一体の計画的な開発b. 第2段階（6世紀）屯倉（ミヤケ）の時代

6世紀前半に人口の急増 難波屯倉の設置（534年）：開発の拠点

中心が明確化⇒台地高所の中央：役所的建物群、その北西：倉庫の比重が高い建物群

工房群は漸増し、鉄器生産の拠点 港から中央へ至る道（街区の先駆けとなる一定の方向）

c. 第3段階（6世紀末～7世紀前半） 難波遷都前夜

中心を囲むように工房群が増加（7ヶ所程度） 手工業の拡大と多角化

台地高所中央の役所が整う 小郡（おごおり、内政、現大阪城北辺）・大郡（おごおり、外交）・館（むろつみ、各国の外交官舎、台地北西の難波津近くか）・屯倉の中樞（台地高所中央か）などが分化して道で連携 谷（工房群）と尾根・平坦地（役所・居住地等）の高低での選地

2) 外部依存（必需物資の需給）

- a. 食糧 植物質食糧 上町台地上や縁辺ではまかえない 6世紀は遠距離から水運で 6世紀末に平野区長原遺跡等の洪積台地で大規模な水田開発 後背地で人口増を支える 動物質食糧 水産物は自ら漁にのり出す（漁具・魚骨から） 哺乳類・鳥類の比重は低い 台地高所の北西の倉庫群地域で多量の網のおもり⇒漁撈集団が水運と物資管理も行う
- b. 木材（木製品） 人口増には多くの建物が伴い、大量の木材が必要 6世紀には上町台地の森林資源は枯渇（植生から）⇒旧国の河内国程度から調達か 薪柴は近くに意図的に林を残したか
- c. 鉄等の手工業品 6世紀末には鉄器を中心に多品目をまかなう生産体制 人口集中地と縁辺部の需要の変動にきめ細かく対応可能 原料はほとんど移入 鉄素材や須恵器（近辺に陶邑などの大生産地）も移入
- d. 塩 人・牛馬に必須 製塩土器から8世紀には塩の大消費地かつ流通拠点 7世紀以前の塩の供給元はよくわからない 河内湖東岸の馬産地と製塩で補完関係か？
- e. 牛馬 6世紀以降、牛馬骨が多数出土 土木・建設、陸運に活用 他地域より牛が多い 馬は河内湖東岸や南の長原・八尾南遺跡の牧、牛は淀川三角州の牧などから供給 上町台地などの開発と馬・牛の牧の整備は連動

3. 奈良盆地—御所市南郷遺跡群

後に葛城氏といわれる地域の大勢力 陸上交通の要路（紀ノ川⇔大和川、水越峠⇔飛鳥）

1) 機能分化

ア. I・II期（5世紀前半～中葉）

祭政の中心施設 極楽寺ヒビキ：儀礼・見せる政治 南郷安田：実務的な政治・家政

南郷大東：水を使った祭祀

高度な金属器加工などの複合工房：南郷角田 鉄器生産の中心

石垣をもつ屋敷：南郷柳原など 技術者の統括者 大壁建物

13ヶ所の集落 各種の手工業生産

牧

これらを南北の直線路と支線でつなぐ 傾斜地で流路の制御と土石流対策は必須

イ. III～V期（5世紀後葉～6世紀）

極楽寺ヒビキなどの祭政の中心施設はなくなる 遺跡群は全体に北にシフト

代わりに大型倉庫群：井戸大田台、居館：多田桧木本 大壁建物の増加

2) 外部依存（必需物資の需給）

- a. 食糧 穀物などの植物質食糧は東北方（曾我川・葛城川）の古くからの水田地帯から 海産物で和歌山とのつながり：クエ
- b. 木材（木製品） 出土柱材や木製品（ヒノキなどの針葉樹）と周辺植生との樹種の違い